

# 第7章 関連文化財群及び文化財保存活用区域

## 第1節 関連文化財群及び文化財保存活用区域設定の考え方

佐倉市の文化財は、分布や時代が広範囲に及ぶことから、将来像の実現に向けた措置の推進にあたっては、文化財同士の繋がりが乏しく、取組みの連動が難しいことが課題として挙げられます。

そこで、本計画では、歴史的・地理的に共通する文化財に一定のまとまりを持たせることで、措置の効果的な推進を図るため、佐倉市における歴史文化の特徴と対応する『関連文化財群』及び『文化財保存活用区域』を設定します。

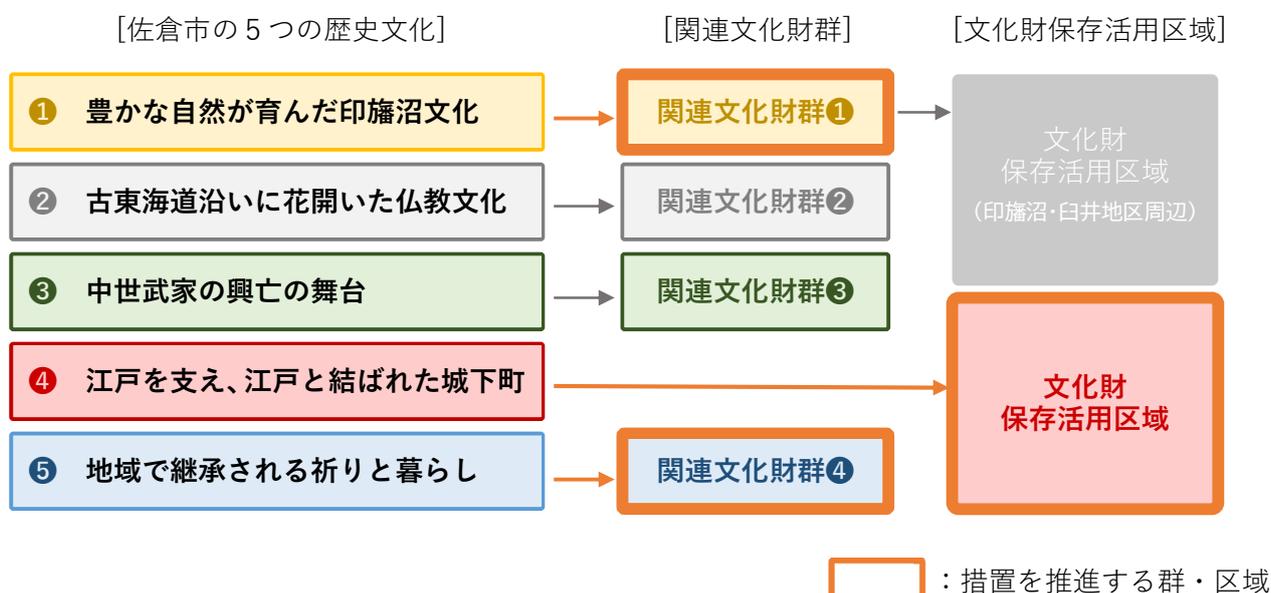
### 【本計画における関連文化財群及び文化財保存活用区域設定の考え方】

本計画では、これまでに佐倉市で培われてきた地域の個性、地域らしさを示す歴史文化の視点から、それぞれの特徴に関連した文化財から構成される関連文化財群と文化財保存活用区域を設定します。関連文化財群は、5つの歴史文化のうち、「豊かな自然が育んだ印旛沼文化」、「古東海道沿いに花開いた仏教文化」、「中世武家の興亡の舞台」、「地域で継承される祈りと暮らし」に対応する4つを設定します。本計画の計画期間においては、より具体的な事業の実施が見込まれるものとして、関連文化財群①「豊かな自然が育んだ印旛沼文化」、④「地域で継承される祈りと暮らし」に基づいた措置を推進します。

5つの歴史文化のうち、「江戸を支え、江戸と結ばれた城下町」については、関連する文化財が旧城下町周辺に集積し、佐倉市観光ランドデザイン「観光Wコア構想」の「城下町地区」、佐倉市景観計画の「旧城下町歴史景観拠点区域」とも重なることから、文化財保存活用区域を設定し、構成文化財とその周辺環境を含めた一体的な措置を推進します。

なお、関連文化財群②・③、また、関連文化財群①の構成文化財が集積している印旛沼・白井地区周辺については、次期計画での具体的な措置の推進を見据え、本計画では把握調査や情報発信、ブランディングなどにおけるテーマの一つとして位置付けます。

### 【佐倉市の歴史文化と関連文化財群・文化財保存活用区域の関係】



## 第2節 関連文化財群の概要と措置

### 関連文化財群① 豊かな自然が育んだ印旛沼文化

時代：縄文～近世 / 地域：志津・白井・佐倉・根郷

#### ① 本群の概要

今から約9千年前、印旛沼が海だった縄文時代、入江奥の台地上に上座貝塚や間野台貝塚に代表される貝塚が形成されました。約3千年前、徐々に海退し汽水化した印旛沼の南岸には、地域の核となる大規模な集落が形成されました。国史跡井野長割遺跡や吉見台遺跡がその代表格です。井野長割遺跡は「環状盛土」が良好に残されており、当時のムラの景観を彷彿とさせます。吉見台遺跡は長軸19mもの巨大な竪穴建物が発見され、白井南中学校に地下保存されています。弥生時代になると、印旛沼を眼下に臨む江原台の台地に大規模な集落が出現し、以後奈良・平安時代まで断続的に集落が営まれるようになりました。

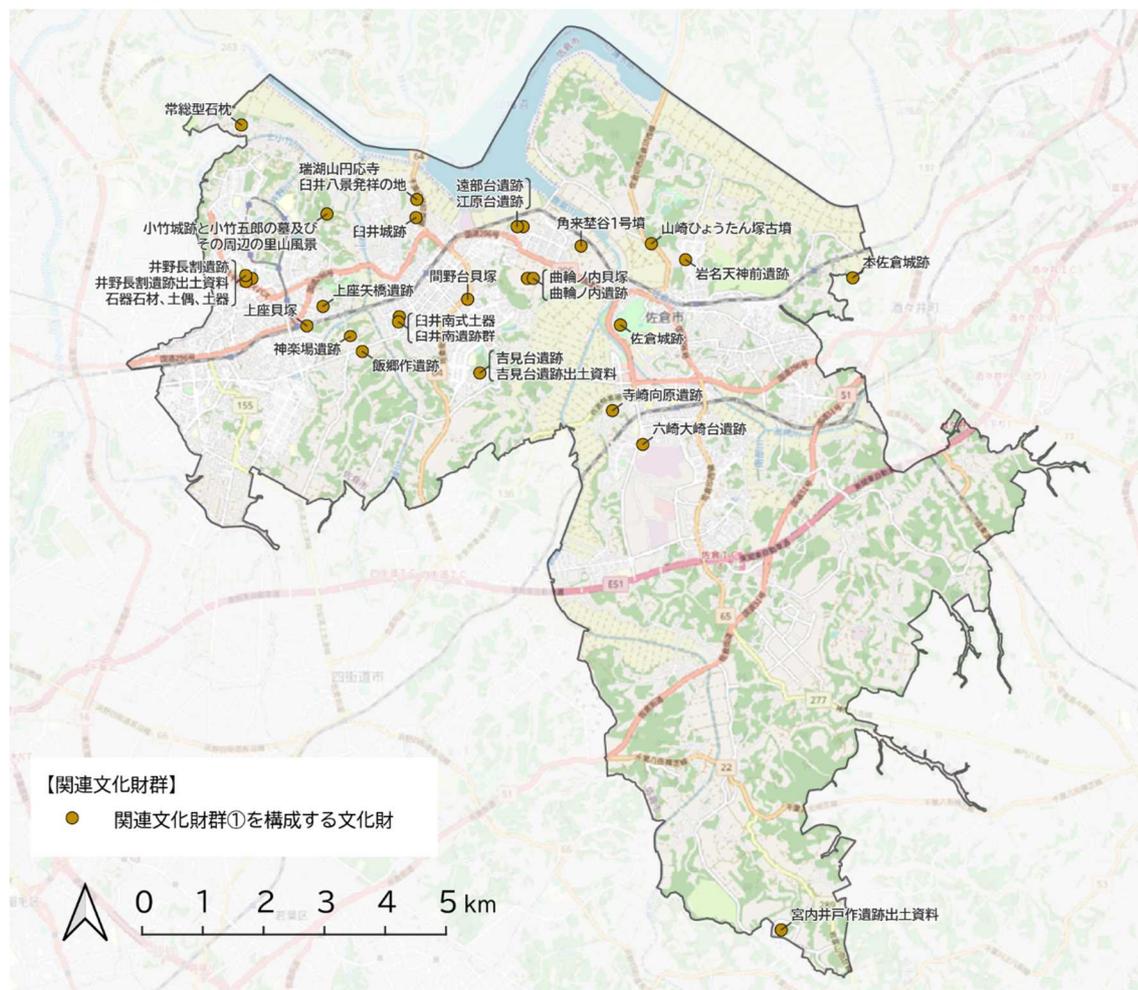
これらの遺跡は、印旛沼とそこに注ぐ鹿島川や手繰川などの河川を背景に育まれた豊かな自然と、そこに生息する動植物を対象とした狩猟・採集・漁労活動によって繁栄した、原始古代の人々の生活を物語っています。また、丸木舟による水上交通を利用し、遠隔地との盛んな交流があったことをうかがえます。縄文時代においては、石器の石材のほか土偶や土器などが県外から持ち込まれました。弥生時代には、県内では最古級の「再葬墓」が印旛沼東岸に出現し、印旛沼南岸を中心とする限られた範囲に「白井南式」と呼ばれる特徴的な土器が分布しています。また、六崎大崎台遺跡は「環濠集落」の東限です。古墳時代には、印旛沼から手賀沼、霞ヶ浦一帯に広がる内海に面した台地上に数多くの古墳が分布し、「常総型石枕」と呼ばれる当地域に特徴的な形態をなす副葬品が分布するなど、各時代に印旛沼周辺域固有の文化が醸成されました。これを「印旛沼文化」として捉えることができます。さらに、古墳時代から中世、近世に移行する過程で、印旛沼は生業面だけでなく軍事戦略的にも重要な位置を占めるようになりました。印旛沼沿岸の台地上に数多くの城館・砦跡が分布するのも、その辺りの事情を示しています。

このように、近世以降の河川改修や干拓を経て大きく変貌を遂げた印旛沼ですが、そこから人々は大きな恩恵を受け、日々の衣食住の生活基盤であったことに加え、他地域との交流、交易において密接な関係にあったことが数多く分布する遺跡と遺物を通して知ることができるのです。

[本群を構成する文化財]

名称	種別（区分）	指定・登録等
井野長割遺跡	記念物（遺跡）	国指定
本佐倉城跡	記念物（遺跡）	国指定
上座貝塚	記念物（遺跡）	県指定
飯郷作遺跡	記念物（遺跡）	県指定
佐倉城跡	記念物（遺跡）	市指定
山崎ひょうたん塚古墳	記念物（遺跡）	市指定
臼井城跡	記念物（遺跡）	市指定
小竹城跡と小竹五郎の墓及びその周辺の里山風景	記念物（遺跡）	未指定（市民文化資産）
瑞湖山円応寺 臼井八景発祥の地	記念物（遺跡）	未指定（市民文化資産）
間野台貝塚	記念物（遺跡）	未指定
神楽場遺跡	記念物（遺跡）	未指定
吉見台遺跡	記念物（遺跡）	未指定
遠部台遺跡	記念物（遺跡）	未指定
江原台遺跡	記念物（遺跡）	未指定
岩名天神前遺跡	記念物（遺跡）	未指定
臼井南遺跡群	記念物（遺跡）	未指定
六崎大崎台遺跡	記念物（遺跡）	未指定
曲輪ノ内貝塚	埋蔵文化財	未指定
寺崎向原遺跡	埋蔵文化財	未指定
上座矢橋遺跡	埋蔵文化財	未指定
角来埜谷 1 号墳	埋蔵文化財	未指定
曲輪ノ内遺跡	埋蔵文化財	未指定
常総型石枕	有形（考古資料）	未指定
臼井南式土器	有形（考古資料）	未指定
遠隔地との交流を示す石器石材、土偶、土器	有形（考古資料）	未指定
井野長割遺跡出土資料	有形（考古資料）	未指定
吉見台遺跡出土資料	有形（考古資料）	未指定
宮内井戸作遺跡出土資料	有形（考古資料）	未指定

## [本群の分布]



資料：OpenStreetMap

## ② 本群における現状・課題

- ✓ 印旛沼周辺が佐倉市観光グランドデザインの「観光 W コア構想」における核の一つとして位置付けられている。
- ✓ 印旛沼は、佐倉城跡とともに佐倉市の象徴として概ね共通認識されている一方で、市民にとってアピールポイントとなる文化財が明確になっていない。
- ✓ 印旛沼周辺に回遊の拠点となる施設や休憩場所が少なく、観光客の滞在時間が短い。

## ③ 本群の方針

- 佐倉市を代表する歴史文化の一つとして、本群の構成文化財をアピールポイントとした「印旛沼文化」のイメージを確立し、情報発信を推進します。
- 各観光拠点の回遊性向上を目指す「観光 W コア構想」との連動により、本群の構成文化財を活用するための環境整備を推進します。

④ 本群に基づく措置

※措置の概要表の見方については第6章\_第1節を参照

No.	措置(事業名)	取組主体	実施期間			関連する措置 No.
			前期	中期	後期	
①-1	●印旛沼周辺の文化財を「知らない」人や初学者をターゲットとしたメッセージの整理・検討	◎行政 ・市民 ・民間団体	●→		●→	4
	印旛沼文化に関する情報発信を行っていくうえで、これを「知らない」人に向けて、どういった情報を発信するのか、関連文化財群の内容や発信手段を整理・検討し、明確にする。					
①-2	●SNS や「佐倉市デジタルアーカイブ」の活用による印旛沼文化に関する戦略的な情報発信	◎行政 ・市民 ・学校 ・民間団体	●→	→	→	7・9
	印旛沼文化に関する情報発信にあたっては、安価で幅広い情報発信が可能な SNS 等のサービスや「佐倉市デジタルアーカイブ」を活用し、未指定文化財に関する普及啓発についても関連文化財群に基づいて戦略的に推進する。					
①-3	●印旛沼周辺の文化財の情報をまとめた冊子の編集・発行・販売	◎行政 ・学識者		●→	→	8
	関連文化財群やその歴史文化を紹介する冊子を編集・発行・販売する。					
①-4	佐倉市観光グランドデザインにおける他部局事業と連携した情報発信の推進	◎行政 ・市民 ・学校 ・民間団体	●	→	→	10
	印旛沼文化に関する情報発信にあたっては、佐倉市観光グランドデザインにおいて推進している他部局の取組みとの連携を図り、より効果的な発信とともに、各事業との相乗効果を促す。					
①-5	●印旛沼文化に関する実物の文化財展示の推進	◎行政 ・学識者	●→	→	→	11
	印旛沼文化の特徴を踏まえた文化財に関する実物の展示を行い、常時あるいは定期的に文化財を直接見ることができる機会を提供する。					
①-6	●シティプロモーションにおける印旛沼文化に関する魅力の明確化	◎行政 ・市民 ・所有者 ・民間団体	●→		●→	13
	市内内外に向けたシティプロモーション事業と連動し、関連文化財群を印旛沼文化の象徴として、その魅力を掘り起こし、定住・交流に資するアピールポイントを明確にする。					
①-7	「3つのとなり」を踏まえた印旛沼文化におけるターゲットの明確化	◎行政 ・民間団体	●→			14
	佐倉市観光グランドデザイン「観光Wコア構想」におけるターゲット戦略である「3つのとなり」を踏まえ、印旛沼文化に関する魅力を掘り起こし、アピールポイントを明確にする。					
①-8	●SDGsやICTを活用した探求学習など新しい観点による幅広い佐倉学・印旛沼文化の活用	◎行政 ◎学校 ・民間団体		●→	→	16・22
	SDGs の教育体験プログラムや「佐倉市 GIGA スクール構想」における ICT の「学び」への活用のように、印旛沼の歴史文化の活用にあたって新しい教育の観点を取り入れる。					
①-9	ニューツーリズムと印旛沼周辺のコンテンツを融合させた新たな観光スタイルの提案	◎行政 ・民間団体	●	→	→	25
	関連文化財群が集積する印旛沼周辺の特徴を活かしつつ、観光の新たなニーズである「探求」「学び」を結び付けた観光のスタイルの提案を行っていく。					

No.	措置(事業名)	取組主体	実施期間			関連する措置 No.
			前期	中期	後期	
①-10	印旛沼周辺の文化財の関連マップや案内板の設置	◎行政 ・市民 ・所有者				31
	案内板の設置にあたっては、既存の関連マップとの整合や、スマートフォンなどのデジタルデバイスとの連動により、関連文化財群の視認性や印旛沼周辺の回遊性の向上を図る。					
①-11	印旛沼文化に関わる史跡の管理整備と活用のあり方の検討	◎行政 ・学識者				35・36
	印旛沼文化に関わる史跡の適切な維持管理や見学の要件を維持・向上させるための整備を行い、今後の活用のあり方の検討を進め、保存整備の促進につなげていく。					
①-12	<b>●本群に関わる既存の展示スペースの確保・維持とネットワーク化</b>	◎行政				54
	本群に関わる既存の展示スペースを今後も確保・維持し、それぞれの内容・機能を見直し、繋がりを持たせ、役割を明確にしたうえで、相互に利用してもらえるように整備を図る。また、他の展示スペースや各文化財とのネットワーク化によって「まちの博物館化」を目指す。					

## 関連文化財群② 古東海道沿いに花開いた仏教文化

時代：飛鳥・奈良・平安 / 地域：和田・弥富・根郷

### ① 本群の概要

大宝元年（701）に大宝律令が制定され、佐倉は下総国印旛郡となりました。平安時代の百科事典『和名類聚抄』には、下総国の 91 もの郷名の記載があり、長隈郷や鳥矢郷、余戸郷などは佐倉市にあったと考えられています。当時の政府は、国を治るために都を起点とした幹線道路を整備しました。東京湾から香取海を越えて常陸国を結ぶ道路は古東海道と呼ばれ、佐倉市域を南北に伸びる現在の国道 51 号線に近いルートが想定されており、沿線上に多くの仏教関連の遺跡が見つかっています。

仏教信仰に関わる中心的な遺跡である奈良時代創建の長熊廃寺は瓦葺の寺院で、出土した「高罌寺」の墨書土器から当時は高岡寺と呼ばれていました。近隣の高岡新山遺跡では、成人男性の火葬骨が納められた灰釉陶器蔵骨器が出土していますが、火葬は仏教の葬法であり、仏教文化の浸透を見ることができます。同じく隣接する高岡大山遺跡は役所のような公的機関であった可能性があり、「寺」「神屋」など 600 点以上の墨書土器が発見された、佐倉市を代表する遺跡です。古東海道沿いには他にも八木山ノ田遺跡で「仏面墨書土器」が発見され、南広遺跡では墨書土器「佛」、六拾部遺跡では墨書土器「白井寺」、瓦塔などの仏教に関わる多くの遺物が、坂戸遺跡群では「坂津寺」の墨書土器のほか、牛馬や木製品に用いたと考えられる鉄製の焼印が出土しており、本市に存在したとされる「鳥取駅家」周辺での馬の飼育や所有に関わる遺物であった可能性があります。また、古東海道から少し南に離れた内田端山越遺跡では仏堂の発見や僧侶の名前が書かれた墨書土器が出土するなど仏教色の強い遺跡でありつつ、須恵器製作集団が住んでおり、須恵器窯跡や集落から出土した「寺」の刻印土器の存在は、須恵器生産に寺が関与したことを示しています。その製品の出荷には鹿島川の水運と古東海道の陸路を利用したと考えられ、他にも古東海道沿いの遺跡からは、役人が身に着けた帯金具や地域間交流を示す搬入土器が集中して見つかっています。

このように陸路である古東海道を介して、当時の最先端の文化や技術がもたらされた佐倉は、都から派遣された多くの役人や技術者の活発な往来がある交通の要衝として栄えた場所であり、印旛地域の仏教信仰や役所に関わる政治の中心地として繁栄を迎えました。

[本群を構成する文化財]

名称	種別（区分）	指定・登録等
墨書土器「寺」「神屋」など多数出土（高岡大山遺跡）	有形（考古資料）	未指定
搬入土器	有形（考古資料）	未指定
役人が身に着けた帯金具	有形（考古資料）	未指定
「寺」の刻印土器（内田端山越窯、内田端山越遺跡）	有形（考古資料）	未指定
仏堂の発見や僧侶の名前が書かれた墨書土器（内田端山越遺跡）	有形（考古資料）	未指定
鉄製の焼印（坂戸清水作遺跡）	有形（考古資料）	未指定
墨書土器「坂津寺」（坂戸広遺跡）	有形（考古資料）	未指定
墨書土器「高正寺」（長熊廃寺）	有形（考古資料）	未指定
墨書土器「白井寺」（六拾部遺跡）	有形（考古資料）	未指定
墨書土器「佛」（南広遺跡）	有形（考古資料）	未指定
瓦塔（六拾部遺跡）	有形（考古資料）	未指定
仏面墨書土器（八木山ノ田遺跡）	有形（考古資料）	未指定
灰釉陶器蔵骨器（高崎新山遺跡）	有形（考古資料）	未指定
内田端山越窯の須恵器	有形（考古資料）	未指定
長熊廃寺跡	記念物（遺跡）	県指定
八木山ノ田遺跡	記念物（遺跡）	未指定
六拾部遺跡	記念物（遺跡）	未指定
鳥取駅家の推定地	記念物（遺跡）	未指定
高岡新山遺跡	埋蔵文化財	未指定
高岡大山遺跡	埋蔵文化財	未指定
坂戸清水作遺跡	埋蔵文化財	未指定
坂戸広遺跡	埋蔵文化財	未指定
南広遺跡	埋蔵文化財	未指定
内田端山越遺跡	埋蔵文化財	未指定
栗野Ⅰ遺跡	埋蔵文化財	未指定
立山遺跡	埋蔵文化財	未指定



## 関連文化財群③ 中世武家の興亡の舞台

時代：中世～近世 / 地域：佐倉・臼井・弥富・和田

### ① 本群の概要

中世の佐倉は、千葉氏をはじめとする武家が台頭し離散集合を繰り返しながら、近世の全国的な統一政権の樹立のなかに向かっていきました。勢力を広げた武家は自らの本拠である城館を築き、城下には市が立ち、商職人が集住し、拠点と拠点をつなぐ街道・宿場も整備されました。佐倉はこうした中世の武家の興亡の舞台となり、その記憶が色濃く刻まれた地域のひとつといえます。

鎌倉幕府の成立にともない、千葉氏は常胤の代に有力御家人の地位を確立し、佐倉市域を支配下に置きました。一方、以前より市域の荘園・地域を支配していた臼井氏をはじめとする在地領主は勢力を失いました。その後、南北朝の動乱の中、臼井氏は興胤の代に足利尊氏に仕え各地を転戦し、その功により臼井の地を安堵され、興胤は臼井氏中興の祖となりました。臼井城の基礎が築かれたのも、この頃とされています。

享徳3年(1454)に享徳の乱がおこると、千葉氏をはじめとする下総の武家も分裂し、関東地方が戦国の動乱に巻き込まれていきました。その中で、千葉氏は本拠を本佐倉城に移し、城は下総の政治・文化・経済の中心となりました。下総の名族たる千葉氏の権勢・栄華は、本佐倉城が戦国末期には10の郭を持つ巨大城郭に発達したことや、主殿・会所をはじめとする屋敷群や威信材をはじめとする遺物からうかがわれます。臼井城では二度の大きな合戦があり、時代とともにその縄張りが拡張され、臼井田宿内砦をはじめとする支城も築かれました。16世紀中ごろには、城主も千葉氏重臣の原氏に代わり、原氏は小田原北条氏と結んで主家である千葉氏をしのぐ勢力へと成長しました。

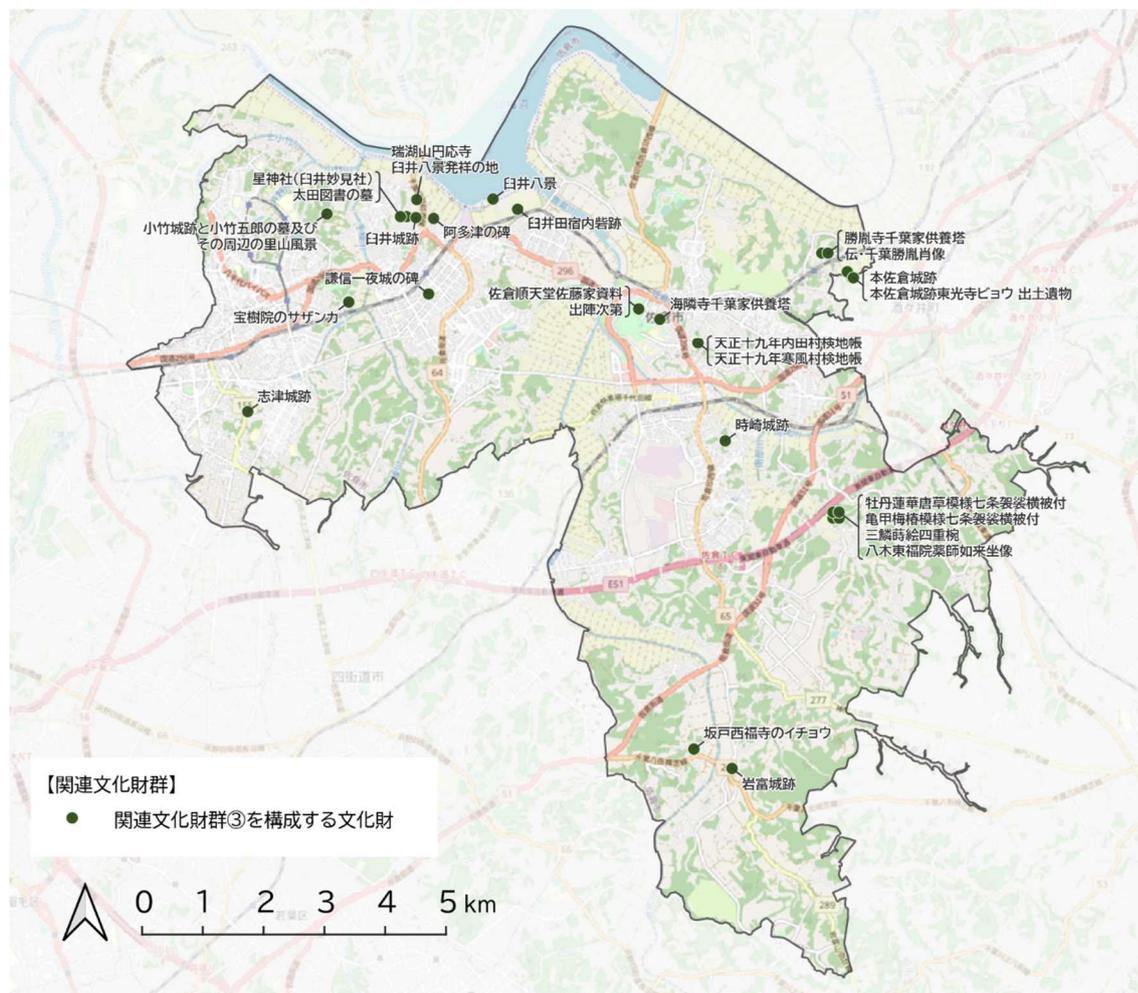
しかし、天正18年(1590)の小田原北条氏滅亡により、佐倉を支配していた武家も大きく様変わりすることとなります。北条氏側についた千葉氏や原氏は所領を没収され、北条氏に代わって関東を支配した徳川家康の一門や家臣が配置されたのです。北条氏の一族であった北条氏勝は豊臣秀吉の小田原攻めの際に降伏し家康の家臣となり、原氏に代わって岩富城主となりました。氏勝は直弥の宝金剛寺に厚く帰依し、多くの寄進を行っています。そして、関ヶ原の戦いの後、家康が全国的な支配を進めると、佐倉市域にあった中世城郭は徳川家の家臣団の再配置にともない廃され、新たな泰平の時代へと転換していきました。

臼井氏や興胤にまつわる伝承や、臼井城攻めの際に上杉謙信が一夜で築いたという陣城など、佐倉の中世武家の興亡に関わる逸話は、近世に様々なかたちで語られていきました。こうした記憶は記念碑や史跡といった場を通じて現在に至るまで語り継がれ、地域の歴史文化を捉えるうえで欠かせない要素となっています。

[本群を構成する文化財]

名称	種別（区分）	指定・登録等
本佐倉城跡	記念物（遺跡）	国指定
牡丹蓮華唐草模様七条袷袋横被付	有形（工芸品）	県指定
亀甲梅椿模様七条袷袋横被付	有形（工芸品）	県指定
岩富城主北条氏勝寄進資料 三鱗蒔絵四重椀	有形（工芸品）	市指定
臼井城跡	記念物（遺跡）	市指定
海隣寺千葉氏供養塔	記念物（遺跡）	市指定
勝胤寺千葉氏供養塔	記念物（遺跡）	市指定
臼井田宿内砦跡	記念物（遺跡）	市指定
坂戸西福寺のイチヨウ	記念物（植物）	市指定
宝樹院のサザンカ	記念物（植物）	市指定
時崎城跡	記念物（遺跡）	未指定（市民文化資産）
小竹城と小竹五郎の墓及びその周辺の里山風景	記念物（遺跡）	未指定（市民文化資産）
瑞湖山円応寺 臼井八景発祥の地	記念物（遺跡）	未指定（市民文化資産）
伝千葉勝胤肖像	有形（絵画）	未指定
八木東福院薬師如来坐像	有形（彫刻）	未指定
天正十九年内田村検地帳	有形（歴史資料）	未指定
天正十九年寒風村検地帳	有形（歴史資料）	未指定
出陣次第	有形（歴史資料）	未指定
本佐倉城跡東光寺ビヨウ 出土遺物	有形（考古資料）	未指定
岩富城跡	記念物（遺跡）	未指定
阿多津の碑	記念物（遺跡）	未指定
太田図書 <small>の墓</small>	記念物（遺跡）	未指定
謙信一夜城の碑	記念物（遺跡）	未指定
星神社（臼井妙見社）	記念物（遺跡）	未指定
志津城跡	記念物（遺跡）	未指定
臼井八景	記念物（名勝地）	未指定

## [本群の分布]



資料：OpenStreetMap

## ② 本群における現状・課題

- ✓ 構成文化財が市内に広く分布し、武家の離散集合と興亡の歴史がわかりにくいため、理解が十分に進んでいない。
- ✓ 本群の構成文化財や全体像を把握することができる場所や機会が少ない。

## ③ 本群の方針

- 本群の特徴をわかりやすく、かつ魅力的なものとして整理し、情報発信を行う。
- 各地区の展示スペースを活かし、繋げることで本群の構成文化財や全体像に触れる機会を提供していく。

## 関連文化財群④ 地域で継承される祈りと暮らし

時代：古代・中世・近世・近現代 / 地域：市内全域

### ① 本群の概要

佐倉市内には、古くからの創建にさかのぼる寺社、篤く信仰を集めた仏像彫刻、寄進・奉納された宝物類、現在まで継承される祭礼文化・民俗・芸能など、様々な祈りと暮らしの場とかが現在も残っています。

古代・中世の創建と伝える寺社としては、古くから十八麻賀多とよばれ佐倉市内や隣接する市町村に18社鎮座する「麻賀多神社」や「大佐倉八幡神社」「鷲神社」「将門山大明神」などが知られています。そして、佐倉城の築城や堀田家が佐倉藩主となった江戸時代、城下には「松林寺」、各地区を代表する「密蔵院薬師堂」「上志津の神社と社叢（八幡神社・天御中主神社）」など、多くの寺社が開かれ、その様相を今に伝える寺社建築も残っています。これらの信仰の場には、「木造大日如来坐像」（大聖院蔵）など中世に遡る様式を示すものや、「木造金剛力士立像」（玉泉寺像）、「木造薬師如来立像」（密蔵院蔵）など鹿島川といった川との関わりで語られる仏像彫刻なども確認されています。加えて、中世・近世に佐倉市域を支配下においた武家の信仰に関わる武具・宝物類が、彼らの信仰した麻賀多神社や宝金剛寺といった場に残されていることも特徴的です。

祭礼文化では、現在の佐倉の秋祭りの母体となる「麻賀多神社神輿渡御」や城麻賀多神社神輿の巡幸、先崎鷲神社の神輿渡御、旧佐倉町の祭礼用具である江戸型山車や各町の御神酒所、佐倉囃子など江戸と佐倉独自の祭礼文化の要素が交じり合った祭礼が現在も盛んに行われています。他にも、中世を起源とする「坂戸の念仏」は、現在も坂戸地区の女性たちによって念仏講が組織され、33年に一度の「大十夜」は宗派の別なく地区の一大行事として受け継がれています。また「青菅のどんどれえ」「弥富のどんど焼き」など小正月に行われる行事や「和田地区民俗資料」などは農村の伝統的な生活文化を伝えています。

このように、佐倉市内には多くの人々の祈りが寄せられた寺社、人々の信仰や生活、風習にかかわる祭礼や芸能に関わる文化財が広い地域・時代を通して残っています。これらは各地域の個性を現在に伝えるものとして尊重され、地域の人々のたゆまぬ努力により継承されています。

#### [本群を構成する文化財]

名称	種別（区分）	指定・登録等
東関東の盆綱	民俗（無形）	国選択
松林寺本堂	有形（建造物）	県指定
紫裾濃胴丸 附木箱1合 折紙8通 由緒書1通	有形（工芸品）	県指定
牡丹蓮華唐草模様七条袷袷横被付	有形（工芸品）	県指定
亀甲梅椿模様七条袷袷横被付	有形（工芸品）	県指定
甲賀神社の鹿面	民俗（有形）	県指定
坂戸の念仏	民俗（無形）	県指定
将門山大明神鳥居	有形（建造物）	市指定
鷲神社鳥居	有形（建造物）	市指定
鷲神社本殿 附 宮殿 棟札 御正躰箱	有形（建造物）	市指定
密蔵院薬師堂	有形（建造物）	市指定
鐺木麻賀多神社本殿 附 棟札2枚	有形（建造物）	市指定

名称	種別（区分）	指定・登録等
大佐倉八幡神社本殿	有形（建造物）	市指定
麻賀多神社神輿	有形（工芸品）	市指定
六崎区神輿	有形（工芸品）	市指定
旧佐倉町の祭礼用具	有形（工芸品）	市指定
岩富城主北条氏勝寄進資料 三鱗蒔絵四重椀	有形（工芸品）	市指定
木造薬師如来立像	有形（彫刻）	市指定
木造阿弥陀如来坐像	有形（彫刻）	市指定
木造大日如来坐像	有形（彫刻）	市指定
木造金剛力士立像	有形（彫刻）	市指定
木造薬師如来坐像及び両脇侍立像	有形（彫刻）	市指定
金銅地藏菩薩坐像	有形（彫刻）	市指定
先崎地藏尊	民俗（有形）	市指定
和田地区民俗資料	民俗（有形）	市指定
佐倉囃子	民俗（無形）	市指定
下勝田の獅子舞	民俗（無形）	市指定
青菅のどんどれえ	民俗（無形）	市指定
麻賀多神社神輿渡御	民俗（無形）	市指定
青菅の大塚・小塚	記念物（遺跡）	市指定
上志津の神社と社叢（八幡神社・天御中主神社）	記念物（遺跡）	未指定（市民文化資産）
表町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
田町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
宮小路町第一の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
並木町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
袋町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
野狐台町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
鎚木町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
栄町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
本町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
先崎鷲神社の神輿及び神輿渡御	民俗（無形）	未指定（市民文化資産）
城麻賀多神社の神輿の巡幸及び奉納相撲と旧相撲地跡	民俗（無形）	未指定（市民文化資産）
西志津囃子	民俗（無形）	未指定（市民文化資産）
角来八幡神社社殿	有形（建造物）	未指定
飯野山東徳寺観音堂	有形（建造物）	未指定
木造薬師如来立像	有形（彫刻）	未指定
八木東福院薬師如来坐像	有形（彫刻）	未指定
本町神明神社神輿	有形（工芸）	未指定
弥富地区民俗資料	民俗（有形）	未指定
佐倉の秋祭り	民俗（無形）	未指定
井野の辻切り	民俗（無形）	未指定
弥富のどんど焼き	民俗（無形）	未指定



### ③ 本群の方針

- ▶ 市民や民間団体等と連携し、本群を構成する祭礼や伝統芸能の繋がりや魅力をストーリーとして伝える機会や場の創出を図るとともに、これらに関する情報発信を推進します。
- ▶ 住民等の参加ニーズを踏まえ、伝統芸能活動団体が“地域を元気にするプレイヤー”として活躍できるための伝統芸能の普及や継承活動に向けた支援を実施します。
- ▶ 継承活動の進捗や、文化財の所有者・管理者・継承団体による文化財の保存・継承の実態を踏まえ、個人や地域による今後の確実な継承や担い手確保に向けた支援を実施します。

### ④ 本群に基づく措置

※措置の概要表の見方については第6章\_第1節を参照

No.	措置(事業名)	取組主体	実施期間			関連する措置 No.
			前期	中期	後期	
⑤-1	● <b>伝統文化を“知らない”人や初学者をターゲットとした構成文化財のメッセージ性の整理・検討</b>	◎行政 ・市民 ・民間団体	●→		●→	4
	伝統文化に関する情報発信を行っていくうえで、これを「知らない」人に向けて、どういった情報を発信するのか、関連文化財群の内容や発信手段を整理・検討し、明確にする。					
⑤-2	● <b>SNS や「佐倉市デジタルアーカイブ」等の活用による伝統文化に関する戦略的な情報発信</b>	◎行政 ・市民 ・学校 ・民間団体	●→		→	7・9
	伝統文化に関する情報発信にあたっては、安価で幅広い情報発信が可能な SNS 等のサービスや「佐倉市デジタルアーカイブ」を活用し、未指定文化財に関する普及啓発についても関連文化財群に基づいて戦略的に推進する。					
⑤-3	● <b>伝統文化を構成する文化財の情報をまとめた冊子の編集・発行・販売</b>	◎行政 ・学識者	●→		→	8
	関連文化財群やその歴史文化を紹介する冊子を編集・発行・販売する。					
⑤-4	<b>伝統芸能活動団体と連携した情報発信の推進</b>	◎行政 ・市民 ・学校 ・民間団体	●→		→	10
	伝統文化に関する情報発信にあたっては、民間企業やボランティア団体、市民が主体的に行っている既存の取組みとも連携を図り、地域一体的な情報発信の推進を図る。					
⑤-5	● <b>地域の祈りと暮らしに関する実物の文化財展示の推進</b>	◎行政 ・学識者	●→		→	11
	地域で継承される祈りと暮らしの特徴を踏まえた実物の文化財に関する展示を行い、常時あるいは定期的に文化財を直接見ることができる機会を提供する。					
⑤-6	<b>伝統文化を構成する文化財の関連マップや案内板の設置</b>	◎行政 ・市民 ・所有者	●→		→	31
	案内板の設置にあたっては、既存の関連マップとの整合や、スマートフォンなどのデジタルデバイスとの連動により、関連文化財群の視認性の向上を図る。					
⑤-7	<b>地域の祈りと暮らしに関する文化財の計画的な補修・大規模修繕の検討・促進</b>	◎行政 ◎所有者 ・学識者	●→		→	34
	案内板の設置にあたっては、既存の関連マップとの整合や、スマートフォンなどのデジタルデバイスとの連動により、関連文化財群の視認性の向上を図る。					

No.	措置(事業名)	取組主体	実施期間			関連する措置 No.
			前期	中期	後期	
⑤-8	●地域の伝統芸能の普及の推進	◎行政 ・市民 ◎所有者 ・民間団体				37
	伝統芸能の発表の機会や場、それに関する情報を提供し継続的な支援・育成を行う。併せて伝統芸能・行事に関する情報を市民向けに発信し、市民の伝統芸能に対する理解・関心を高める。					
⑤-9	●継承活動におけるモデルケースの確立とノウハウ波及に向けた支援	◎行政 ・所有者 ・民間団体				38
	これまで継承活動を行ってきた中で、モデルケースとなりうる団体・事例のノウハウを、これから継承活動を本格化しようとする団体・地域で共有し、得られた成果が波及していくことで、新たな継承活動をスムーズに行うことができるよう支援していく。					
⑤-10	祭礼や伝統芸能に関わる市民や民間団体等の参加ニーズの把握	◎行政 ・市民 ・民間団体				39
	伝統芸能の普及・継承への市民の主体的・継続的な参加を促進するため、関連文化財群に関わる活動等に対する市民や民間団体等のニーズ・実態を把握する。					
⑤-11	祭礼や伝統芸能に関する地域まちづくり事業の支援	◎行政 ◎市民 ・民間団体				40
	自治会などが実施する伝統芸能の普及・継承に関連する地域まちづくり事業に対し、助成金の交付や技術的な支援を行う。					
⑤-12	●文化財の所有者・管理者・伝承団体への補助金の交付や民間助成金の導入支援	◎行政 ・所有者				47
	文化財の所有者・管理者・伝承団体の活動を支援するため、佐倉市文化財保存整備事業補助金を交付するとともに、市以外の補助金、民間等の助成金の導入を促すため、それらの情報提供・申請支援を行う。					
⑤-13	●保存環境の実態に関する調査とより望ましい保存環境の構築・提案	◎行政 ◎所有者 ・学識者 ・民間団体				51
	個人・団体などが所有する文化財で扱いの難しい美術工芸品、歴史資料の保存環境について、実態の調査と所有者のニーズを把握し、その情報をもとにより望ましい保存環境の構築・提案を行う。					
⑤-14	●本群に関わる既存の展示スペースの確保・維持とネットワーク化	◎行政				54
	本群に関わる既存の展示スペースを今後も確保・維持し、それぞれの内容・機能を見直し、繋がりを持たせ、役割を明確にしたうえで、相互に利用してもらえるように整備を図る。また、他の展示スペースや各文化財とのネットワーク化によって「まちの博物館化」を目指す。					

### 第3節 文化財保存活用区域の概要と措置

#### 文化財保存活用区域 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町

時代：近世・近現代 / 地域：佐倉

##### ① 本区域の概要

今から約400年前、慶長15年(1610)に佐倉の領主となった土井利勝は、翌年より約7年をかけて佐倉城を築きました。土井利勝以降、有力な譜代大名が城主となり、老中をはじめとする幕府要職を務め、佐倉城は江戸の東の要衝として位置付けられ、政治的にも軍事的にも江戸を支えたのです。築城と同時に城下も整備され、江戸とは佐倉道(成田街道)により結ばれました。佐倉は城下町として江戸を支え、その影響を受けながら発展していきました。

城の設計は、石垣を用いず、土塁と空堀・水堀を巧みに配置し守りを固め、近世の城普請の集大成のひとつに数えられています。大手門東の宮小路、鑓木小路、海隣寺並木などに武家地が置かれ、宮小路の東に新町、城の北に田町といった町人地が配置され城下が整備されました。町には、江戸と成田を結ぶ成田街道(佐倉道)が通り、参勤交代や年貢米の輸送に用いられ、江戸から成田山への参詣客でも賑わうようになりました。

旧城下の町並みは、当時の道筋、地割をよく残していることが、江戸時代に描かれた「佐倉城大絵図」をはじめとする絵図群との比較から分かります。また土井利勝によって創建された松林寺や堀田正睦が社殿を造営した麻賀多神社など、当時より信仰を集めた寺社も残っています。そして、幕末の佐倉は藩主堀田正睦のもと、蘭学の先進地としても知られています。藩校成徳書院では充実した儒学・武芸と蘭学の教育が行われ、蘭方医佐藤泰然が開いた順天堂は、多くの門人を輩出したことから近代医学の発祥地のひとつに数えられています。

明治初期には城内の建物が取り壊され、佐倉城は陸軍歩兵連隊の兵営所として再利用され、城下町も連隊のまちへと変貌しました。この頃、町の人々はかつて江戸で使われていた江戸型山車を購入し引き廻しを行い、現在も江戸で失われた祭礼文化が佐倉で受け継がれています。また、最後の城主であった堀田正倫は、廃藩置県により一時佐倉を離れましたが、旧堀田邸を本邸として産業・教育の振興に尽力し、地域の人々に親しまれました。堀田家は、菩提寺である甚大寺の金毘羅縁日なども含め、今なお佐倉の人々に親しまれています。第二次世界大戦後、兵営所は解体され、佐倉城址公園、国立歴史民俗博物館、佐倉中学校、佐倉東高校などが置かれ、城は文化・教育・憩いの場として姿を変えました。

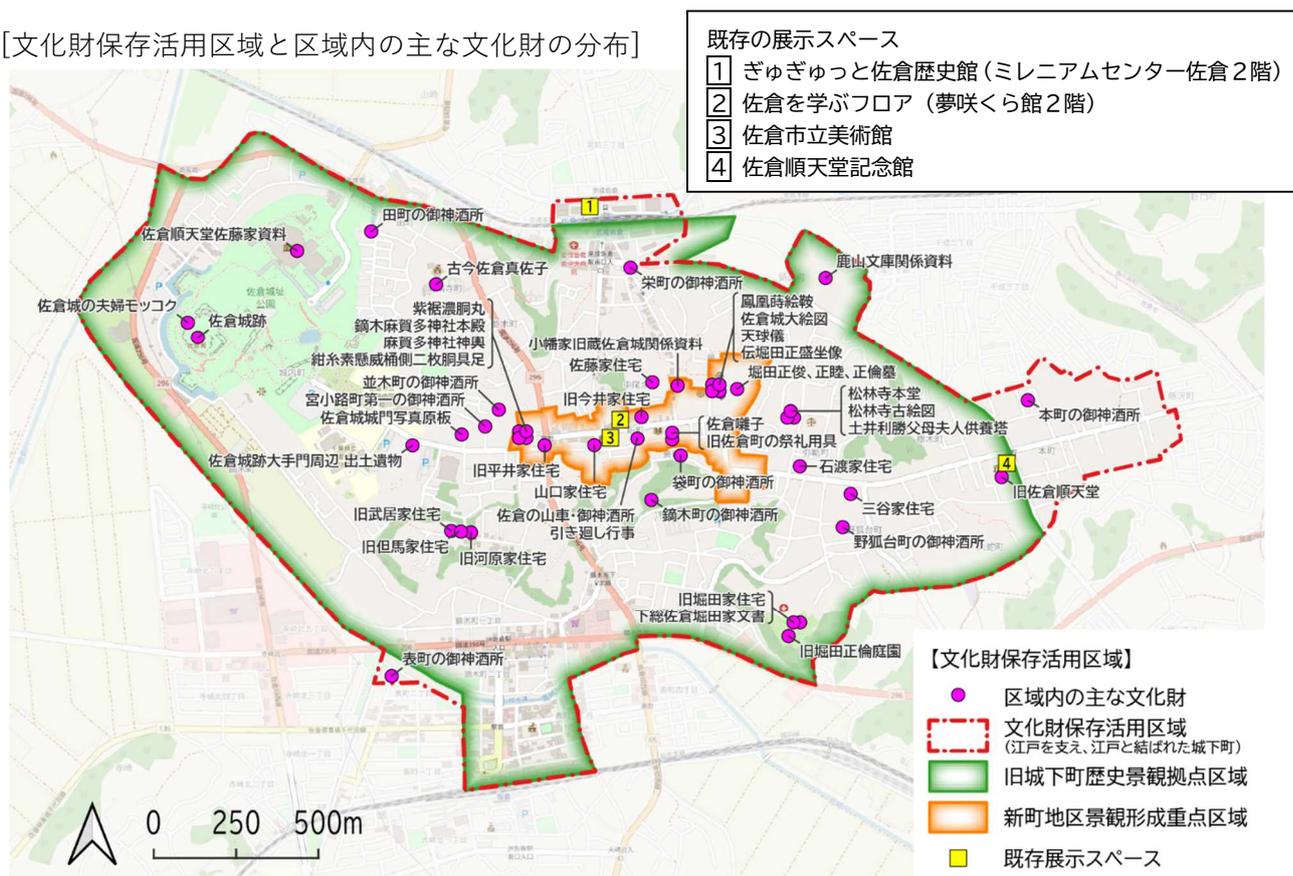
このように、現在の佐倉には江戸を支え、江戸と結ばれた歴史文化を今に伝える文化財が多く残り、これらを通して江戸の趣きを今に感じる事ができるのです。

[本区域内の主な文化財]

名称	種別(区分)	指定・登録等
旧堀田家住宅 附 棟札1枚	有形(建造物)	国指定
旧堀田正倫庭園	記念物(名勝地)	国指定
旧武居家住宅	有形(建造物)	国登録
旧平井家住宅	有形(建造物)	国登録
旧今井家住宅	有形(建造物)	国登録

名称	種別（区分）	指定・登録等
佐藤家住宅	有形（建造物）	県指定
旧河原家住宅	有形（建造物）	県指定
松林寺本堂	有形（建造物）	県指定
紫裾濃胴丸 附木箱1合 折紙8通 由緒書1通	有形（工芸品）	県指定
鳳凰蒔絵鞍	有形（工芸品）	県指定
天球儀	有形（工芸品）	県指定
鹿山文庫関係資料	有形（歴史資料）	県指定
旧佐倉順天堂	記念物（遺跡）	県指定
堀田正俊、正睦、正倫墓	記念物（遺跡）	県指定
佐倉城の夫婦モッコク	記念物（植物）	県指定
旧但馬家住宅	有形（建造物）	市指定
鐺木麻賀多神社本殿 附棟札2枚	有形（建造物）	市指定
麻賀多神社神輿	有形（工芸品）	市指定
旧佐倉町の祭礼用具	有形（工芸品）	市指定
佐倉城大絵図	有形（絵画）	市指定
古今佐倉真佐子・附図	有形（書跡・典籍）	市指定
佐倉城城門写真原版	有形（歴史資料）	市指定
松林寺古絵図	有形（歴史資料）	市指定
伝堀田正盛坐像	有形（歴史資料）	市指定
小幡家旧蔵佐倉城関係資料	有形（歴史資料）	市指定
佐倉城跡	記念物（遺跡）	市指定
土井利勝父母夫人供養塔	記念物（遺跡）	市指定
佐倉囃子	民俗（有形）	市指定
山口家住宅 袖蔵および店蔵	有形（建造物）	市登録
三谷家住宅 主屋・袖蔵および座敷屋	有形（建造物）	市登録
石渡家住宅 主屋および蔵	有形（建造物）	市登録
表町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
田町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
宮小路町第一の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
並木町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
袋町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
野狐台町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
鐺木町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
栄町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
本町の御神酒所	民俗（有形）	未指定（市民文化資産）
紺糸素懸威桶側二枚胴具足	有形（工芸品）	未指定
下総佐倉堀田家文書	有形（歴史資料）	未指定
佐倉順天堂佐藤家資料	有形（歴史資料）	未指定
佐倉城跡大手門周辺 出土遺物	有形（考古資料）	未指定
佐倉の山車・御神酒所引き廻し行事	民俗（無形）	未指定

[文化財保存活用区域と区域内の主な文化財の分布]



資料：OpenStreetMap

## ② 本区域における現状・課題

- ✓ 佐倉城跡と城下町が佐倉市の象徴として概ね共通認識されている一方で、市民にとってアピールポイントとなる文化財が明確になっていない。
- ✓ 既存の展示スペースの機能・役割が十分に活かされておらず、文化財同士の面的な繋がりや連動が乏しい。
- ✓ 佐倉城跡や旧城下町の周辺における地域の特徴を活かした一体的な景観形成や、案内・誘導サインによる文化財の視認性が不足している。
- ✓ 城と城下町に関する歴史文化を実際に体験し、楽しみながら学ぶことのできる機会が少ない。
- ✓ 日本遺産に認定された歴史文化の特性・強みが観光コンテンツとして十分に活かされておらず、観光客増加に繋がっていない。
- ✓ 玄関口となる鉄道駅周辺における歴史的な景観特性への配慮が不足している。
- ✓ 歴史的建造物の減少や低未利用地の増加により、従来の町割りやまち並みの連続性が変化しており、「歴史のまち佐倉」としての景観・文化が感じられなくなっている。
- ✓ 旧城下町周辺に回遊の拠点となる施設や休憩場所が少なく、観光客の滞在時間が短い。

### ③ 本区域の方針

- ▶ 佐倉市を代表する歴史文化の一つとして、本区域内の文化財をアピールポイントとした「歴史のまち佐倉」のブランドイメージを確立し、情報発信を推進します。
- ▶ 本区域内の文化財を活用した追体験・新体験の実施や、関連展示の充実、教育・観光の推進により、佐倉市を代表する歴史文化の魅力の発信や普及啓発を展開します。
- ▶ 日本遺産に認定された歴史文化の特性・強みを活かした新たな観光スタイルを展開し、観光客の誘致・消費促進に向けた連携体制を構築します。
- ▶ 佐倉市景観計画の「景観拠点区域」および「景観形成重点区域」との連動により、街道筋や鉄道駅周辺を含めた旧城下町周辺の歴史文化に配慮した一体的な景観形成を推進します。
- ▶ 各観光拠点の回遊性向上を目指す佐倉市観光グランドデザインの「観光 W コア構想」との連動により、本区域内の文化財や既存の展示スペースに繋がりを持たせ、旧城下町周辺の拠点として活用するための環境整備を推進します。

### ④ 本区域に基づく措置

※措置の概要表の見方については第6章\_第1節を参照

No.	措置(事業名)	取組主体	実施期間			関連する措置 No.
			前期	中期	後期	
A-1	●城下町の歴史文化の魅力を、より深く知ってもらう「追体験」の企画・実施	◎行政 ・市民 ・民間団体				5
	本区域内の文化財そのものの価値や魅力を、より深く知ってもらうための普及啓発事業を行う。近世の武家文化に基づいた歴史考証を十分に行い、リアリティ追求のための専門的な知識とそれをどのように提示するのかの工夫を図り、城下町の歴史文化や文化財を知る特別な機会を提供する。					
A-2	●城下町の歴史文化の価値や魅力に別の価値や魅力を付加する「新体験」の企画・実施	◎行政 ・市民 ◎民間団体				6
	文化財が持つそのものの価値や魅力に、別の価値や魅力を付加したより効果的な普及啓発事業を行う。文化財そのものが持つ雰囲気の高さや本区域内での立地などを活かし、専門家だけの目線によらないアプローチや既存の枠にとらわれないアイデアを具体化し、これまでに興味のなかった層へ城下町の歴史文化、文化財を知る機会を増やしていく。					
A-3	●若い世代を対象とした SNS 等の活用による、旧城下町周辺に関する戦略的な情報発信	◎行政 ・市民 ・学校 ・民間団体				7
	佐倉の城下町の歴史文化に関する情報発信にあたっては、幅広い情報発信が可能な SNS 等のサービスを活用し、本区域内の未指定文化財に関する普及啓発についても戦略的に推進する					
A-4	●旧城下町周辺の構成文化財の情報をまとめた冊子の編集・発行・販売	◎行政 ・学識者				8
	本区域内の文化財やその歴史文化を紹介する冊子を編集・発行・販売する。					
A-5	佐倉市観光グランドデザインにおける他部局事業と連携した情報発信の推進	◎行政 ・市民 ・学校 ・民間団体				10
	近世の武家文化に関する情報発信にあたっては、佐倉市観光グランドデザインにおいて本区域内を対象に推進している他部局の取組みとの連携を図り、より効果的な発信とともに、各事業との相乗効果を促す。					

No.	措置(事業名)	取組主体	実施期間			関連する措置 No.
			前期	中期	後期	
A-6	●城下町の歴史文化に関する実物の文化財展示の推進	◎行政 ・学識者				11
	江戸を支え、江戸と結ばれた城下町の特徴を踏まえた実物の文化財に関する展示を本区域内で行い、常時あるいは定期的に文化財を直接見ることができる機会を提供する。					
A-7	美術館における城下町の歴史文化を踏まえた展示の計画・実施	◎行政				12
	本区域内に位置する佐倉市立美術館の地理的な特徴を活かし、城や城下町の歴史文化を踏まえたテーマによる展示を計画し、実施することで美術館の活動自体にもさらなる幅をもたせていく。					
A-8	●シティプロモーションにおける旧城下町に関する魅力の明確化	◎行政 ・市民 ・所有者 ・民間団体				13
	市内外に向けたシティプロモーション事業と連動し、本区域内の文化財を近世の武家文化の象徴として、その魅力を掘り起こし、定住・交流に資するアピールポイントを明確にする。					
A-9	「3つのとなり」を踏まえた旧城下町周辺におけるターゲットの明確化	◎行政 ・民間団体				14
	佐倉市観光グランドデザイン「観光Wコア構想」におけるターゲット戦略である「3つのとなり」を踏まえ、佐倉城跡や旧堀田邸を中心としたツアーの誘致や、城下町の歴史文化PRイベントの検討に向けて本区域内の文化財を拠点として活用する。					
A-10	●SDGsやICTを活用した探求学習など新しい観点による幅広い佐倉学・城下町の歴史文化の活用	◎行政 ◎学校 ・民間団体				16・22
	SDGsの教育体験プログラムや「佐倉市GIGAスクール構想」におけるICTの「学び」への活用のように、佐倉学と城下町の歴史文化の活用にあたって新しい教育の観点を取り入れる。					
A-11	周囲の修景などによる視認性・統一性の向上	◎行政 ・所有者 ・学識者 ・民間団体				18
	城下町や街道沿いの宿場の趣きを感じさせる景観を継承するため、周辺の土地利用に配慮した景観誘導を行い、本区域内の文化財やまち並みの視認性を高め、自然と調和した環境と一体的なデザインの形成を図る。					
A-12	土地利用に応じ、まち並みの連続性に配慮した沿道景観の誘導	◎行政 ・所有者 ・学識者 ・民間団体				19
	街道周辺の沿道空間における建造物の建て替えや低未利用地の増加などによる景観の魅力低下を防ぐため、本区域内の建築物や工作物の配置を誘導し、まち並みの連続性を保全・創出する。					
A-13	●日本遺産の構成文化財を活用した体験プログラムの造成・販売・ブラッシュアップ	◎行政 ◎民間団体				23
	本区域内の日本遺産「北総四都市江戸紀行」の構成文化財を活かした体験プログラムを行政・観光教委会・民間団体と協働して造成し販売する。販売と並行してモニターツアーなどを実施しながら内容のブラッシュアップを図る。					
A-14	●城下町の歴史文化をテーマとした社会科見学や修学旅行などの教育旅行の誘致	◎行政 ・学校 ・民間団体				24
	本区域内の武家屋敷、旧堀田邸、佐倉順天堂記念館などの文化財施設や佐倉城跡などの佐倉地区の豊富な「学び」を提供するコンテンツを活かし、校外学習・教育旅行の誘致を図る。					



# 資料編

## ① 計画作成の経緯

年月日	内 容
令和4年2月9日	第1回佐倉市文化財保存活用地域計画策定協議会 ・文化財保存活用地域計画について ・佐倉市の文化財について
令和4年3月16日	令和3年度第2回佐倉市文化財審議会 ・佐倉市文化財保存活用地域計画の策定について
令和4年8月18日	第2回佐倉市文化財保存活用地域計画策定協議会（ワークショップ形式） ・あなたが考える佐倉市の歴史文化の特色・魅力は何か？ ・だれのための将来像（ビジョン）なのか？
令和4年9月12日	第1回文化庁協議（オンライン開催）
令和4年12月27日	第3回佐倉市文化財保存活用地域計画策定協議会（ワークショップ形式） ・将来像を見据えた佐倉市の文化財の現況・課題を考える ・現況・課題を踏まえた文化財の保存活用に関する方針・措置を考える
令和5年3月5日	令和4年度第2回佐倉市文化財審議会 ・佐倉市文化財保存活用地域計画策定の進捗について
令和5年3月1日	文化庁調査官による佐倉市視察
令和5年3月30日	第2回文化庁協議（オンライン開催）
令和5年5月10日	第3回文化庁協議（オンライン開催）
令和5年5月31日	第4回佐倉市文化財保存活用地域計画策定協議会 ・佐倉市文化財保存活用地域計画（素案）について
令和5年6月11日	令和5年度第1回佐倉市文化財審議会 ・佐倉市文化財保存活用地域計画（素案）について
令和5年6月28日	令和5年度6月佐倉市教育委員会会議 ・佐倉市文化財保存活用地域計画について（協議）
令和5年7月12日	第149回佐倉市政策調整会議
令和5年7月31日～ 8月14日	意見公募手続（パブリックコメント）の実施
令和5年8月16日	令和5年度8月佐倉市教育委員会会議 ・佐倉市文化財保存活用地域計画について（議決）
令和5年8月21日	第5回佐倉市文化財保存活用地域計画策定協議会 ・佐倉市文化財保存活用地域計画（案）について（報告） ・これからの文化財の保存と活用について（意見交換）
令和5年11月〇日	文化庁長官へ認定申請
令和5年12月〇日	計画認定

② 佐倉市文化財保存活用地域計画策定協議会 委員名簿（令和3年度～令和5年度）

所属等			氏名（敬称略）	備考
1	会長	国立歴史民俗博物館 名誉教授	濱島 正士	文化財審議委員、学識経験者(建築史)
2	副会長	元国立歴史民俗博物館 教授	小島 道裕	市民文化資産運用委員、 学識経験者(日本中・近世史)
3	委員	中央大学文学部 教授	宮間 純一	市史編さん委員、 学識経験者（日本近代史）
4	委員	千葉県郷土博物館 総括主任研究員	外山 信司	文化財審議委員、市史編さん委員、 学識経験者（日本中世文学史）
5	委員	佐倉山車人形保存会 事務局長	鶴岡 勝人	文化財所有者
6	委員	宗教法人宝金剛寺 代表役員	京極 勇剛	文化財所有者
7	委員	文化財ボランティアガイド佐倉 前会長	村田 高晴	関係団体
8	委員	NPO 法人佐倉一里塚 理事長	慶田 康郎	関係団体
9	委員	にわのわ実行委員会 実行委員長	サカモト トモコ	市民文化資産運用委員、関係団体
10	委員	公募市民	石橋 美佐	公募
11	委員	公募市民	佐々木 智幸	公募
12	委員	千葉県教育庁文化財課長	田中 文昭	～令和4年3月31日
			金井 一喜	令和4年4月1日～令和5年3月31日
			稲村 弥	令和5年4月1日～
13	委員	地域創生課長	鈴木 研悟	～令和4年3月31日
		佐倉の魅力推進課長		令和4年4月1日～令和5年3月31日
			鴨志田 聡	令和5年4月1日～
14	委員	産業振興課長	櫻井 裕樹	～令和4年3月31日
15	委員	都市計画課長	菅澤 雄一郎	～令和5年3月31日
			鈴木 康二	令和5年4月1日～
16	委員	指導課長	松丸 晴久	～令和5年3月31日
			榎本 泰之	令和5年4月1日～
17	委員	市立美術館長	猪股 佳二	～令和4年3月31日
			柴田 芳彦	令和4年4月1日～

### ③ 佐倉の歴史文化・文化財、本計画の執筆に関わる主要参考文献一覧

No.	編・著者	刊行物名	発行者	発行年	
1	千葉県印旛郡役場	千葉県印旛郡誌	千葉県印旛郡役場	1913年	大正2年
2	佐倉地方郷土文化研究同好会	佐倉地方文化 創刊号～第15号	佐倉地方郷土文化研究同好会	1953～63年	昭和28～38年
3	佐倉市公民館	佐倉市誌資料 第一輯～四輯	佐倉市公民館	1957～62年	昭和32～37年
4	佐倉市教育委員会	佐倉地方文化財 第1号～11号・特別号	佐倉市文化財保護協会	1967～79年	昭和42～54年
5	佐倉市教育委員会	文化財時報	佐倉市教育委員会	1969～76年	昭和44～51年
6	佐倉市教育委員会	わたしたちの佐倉市 三・四年生用	佐倉市教育委員会	1970～2023年	昭和45～令和5年
7	佐倉市総務課 市史編さん室	佐倉市史 巻1	佐倉市	1971年	昭和46年
8	佐倉市教育委員会	佐倉文庫第一集 古今佐倉真佐子	佐倉市教育委員会	1972年	昭和47年
9	佐倉市総務課 市史編さん室	佐倉市史 巻2	佐倉市	1973年	昭和48年
10	佐倉市教育委員会	佐倉の文化財	佐倉市民憲章推進協議会	1973年	昭和48年
11	佐倉市立和田小学校 PTA	和田のなりわい	佐倉市教育委員会・ 佐倉市立和田小学校 PTA	1973年	昭和48年
12	佐倉市教育委員会	佐倉文庫第二集 佐倉風土記	佐倉市教育委員会	1974年	昭和49年
13	千葉県教育庁文化課	千葉県の民家Ⅲ 下総地方の民家	千葉県教育委員会	1974年	昭和49年
14	佐倉市教育委員会	ふるさとの石仏（佐倉市の文化財）	佐倉市教育委員会	1975年	昭和50年
15	佐倉市教育委員会	佐倉文庫第三集 新撰佐倉風土記	佐倉市教育委員会	1977年	昭和52年
16	佐倉市教育委員会	佐倉文庫第四集 三峯山道中記図絵	佐倉市教育委員会	1978年	昭和53年
17	佐倉市教育委員会	佐倉市の指定文化財	佐倉市教育委員会	1978年	昭和53年
18	佐倉市総務課 市史編さん室	佐倉市史 巻3	佐倉市	1979年	昭和54年
19	佐倉市立中央公民館内 新佐倉真佐子を作る会	新佐倉真佐子 佐倉お茶の間風土記	佐倉市立中央公民館内 新佐倉真佐子を作る会	1979年	昭和54年

No.	編・著者	刊行物名	発行者	発行年	
20	佐倉市教育委員会	佐倉文庫第五集 佐倉地方文化（抄）	佐倉市教育委員会	1980年	昭和55年
21	根郷公民館郷土史講座	根郷風土記	根郷公民館	1981年	昭和56年
22	佐倉市教育委員会	佐倉文庫第六集 総葉概録	佐倉市教育委員会	1981年	昭和56年
23	佐倉市市史編さん委員会	佐倉市史料第一集 佐倉藩雑史	佐倉市	1981年	昭和56年
24	千葉県企画部県民広報課	千葉県史料近世編 堀田正睦外交文書	千葉県	1981年	昭和56年
25	千葉県企画部県民広報課	千葉県史料近世編 佐倉藩年寄部屋日記	千葉県	1982年	昭和57年
26	佐倉城本丸址発掘調査団	総州佐倉城 —佐倉城本丸址発掘調査概報—	佐倉市	1982年	昭和57年
27	（財）観光資源保護財団	佐倉の武家屋敷	（財）観光資源保護財団	1982年	昭和57年
28	佐倉市企画課	佐倉市制30年史	佐倉市	1983年	昭和58年
29	佐倉市総務課 市史編さん室	佐倉市史研究 第1号～34号	佐倉市	1983～ 2021年	昭和58～ 令和3年
30	佐倉市教育委員会	千葉県佐倉市埋蔵文化財分布地図 —佐倉市遺跡詳細分布調査報告書—	佐倉市教育委員会	1984年	昭和59年
31	佐倉市教育委員会	房総の生んだ金工家たち	佐倉市教育委員会	1984年	昭和59年
32	松裏善亮・ 佐倉市史編さん委員会	たんたん山 佐倉に伝わる話	佐倉市	1984年	昭和59年
33	千葉県企画部県民広報課	千葉県史料近世編 佐倉藩紀氏雑録	千葉県	1984年	昭和59年
34	千葉県企画部県民広報課	千葉県史料近世編 佐倉藩紀氏雑録続集	千葉県	1985年	昭和60年
35	（財）千葉県文化財センター	千葉県埋蔵文化財分布地図（1） —東葛飾・印旛地区—	（財）千葉県文化財センター	1985年	昭和60年
36	（財）千葉県文化財センター	佐倉市長熊廃寺跡確認調査報告書	（財）千葉県文化財センター	1987年	昭和62年
37	佐倉市総務課 市史編さん室	佐倉市史 民俗編	佐倉市	1987年	昭和62年
38	佐倉市教育委員会	佐倉市の指定文化財	佐倉市教育委員会	1987年	昭和62年
39	高橋三千男ほか	弥富風土記	弥富風土記編纂委員会	1987年	昭和62年

No.	編・著者	刊行物名	発行者	発行年	
40	千葉県教育委員会	千葉県歴史の道調査報告書 2 成田街道	千葉県教育委員会	1987年	昭和62年
41	佐倉市教育委員会	千葉県佐倉市中近世城跡測量調査報告書	佐倉市教育委員会	1988年	昭和63年
42	和田郷土史編纂委員会	和田村史	和田公民館	1988年	昭和63年
43	佐倉市教育委員会文化課	風媒花 第1号～35号	佐倉市教育委員会	1988～ 2024年	昭和63～ 令和5年
44	資料集編集委員会	佐倉の歴史を学ぶ資料集	佐倉市立中央公民館	1989年	平成元年
45	佐倉市教育委員会 社会教育課	佐倉考古展図録 (平成2年度・佐倉新町資料館特別展)	佐倉市教育委員会	1990年	平成2年
46	千葉県教育委員会	千葉県所在古墳群詳細分布調査報告書	千葉県教育委員会	1990年	平成2年
47	佐倉市教育委員会	佐倉市郷土の先覚者シリーズ	佐倉市教育委員会	1990～ 98年	平成2～ 10年
48	千葉県教育委員会	千葉県歴史の道調査報告書 2 成田街道	千葉県教育委員会	1991年	平成3年
49	佐倉伝説めぐりの会	臼井宿回顧	佐倉市立臼井公民館	1992年	平成4年
50	佐倉市教育委員会	佐倉順天塾社中姓名録	佐倉市教育委員会	1992年	平成4年
51	佐倉市教育委員会文化課	佐倉細見 初版	佐倉市教育委員会	1992年	平成4年
52	千葉県教育委員会	千葉県近代建造物実態調査報告書	千葉県教育委員会	1993年	平成5年
53	秋山保	佐倉地方の学校教育別冊2 佐倉藩の教育	佐倉市教育委員会	1994年	平成6年
54	勸印旆沼環境基金	印旆沼 -自然と文化- 創刊号～第6号	勸印旆沼環境基金	1994～ 99年	平成6～ 11年
55	佐倉市教育委員会文化課	佐倉細見 改訂版	佐倉市教育委員会	1995年	平成7年
56	千葉県教育委員会	千葉県所在中近世城館跡詳細分布 調査報告書 I 一旧下総地域一	千葉県教育委員会	1995年	平成7年
57	佐倉市立中央公民館	佐倉の自然	佐倉市立中央公民館	1995年	平成7年
58	佐倉市立中央公民館	洋学のまち佐倉	佐倉市立中央公民館	1995年	平成7年
59	佐倉市教育委員会文化課	佐倉細見 改訂2版	佐倉市教育委員会	1996年	平成8年

No.	編・著者	刊行物名	発行者	発行年	
60	佐倉日蘭協会	佐倉順天堂門人調査中間報告書	佐倉日蘭協会	1996年	平成8年
61	佐倉市立中央公民館・ 佐倉市立図書館	佐倉と文学	佐倉市立中央公民館	1996年	平成8年
62	千葉県教育委員会	千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻	千葉県教育委員会	1996年	平成8年
63	(勸)千葉県史料研究財団	千葉県の歴史 資料編 古代 出土文字資料集成	千葉県	1996年	平成8年
64	(勸)千葉県文化財センター	千葉県埋蔵文化財分布地図(1) —東葛飾・印旛地区(改訂版)—	(勸)千葉県文化財センター	1997年	平成9年
65	加藤高・加藤紘	立身流之形 第一巻 初版	立身流 加藤紘	1997年	平成9年
66	佐倉市総務課 市史編さん室	ふるさと歴史読本 近世の佐倉	佐倉市	1998年	平成10年
67	和田公民館	和田の伝承	和田公民館	1998年	平成10年
68	新根郷風土記をつくる会	馬渡風土記	根郷公民館	1998年	平成10年
69	佐倉市教育委員会	旧武居家住宅復元工事報告書	佐倉市教育委員会	1999年	平成11年
70	佐倉市立美術館	生誕100年記念 香取正彦展	佐倉市立美術館	1999年	平成11年
71	佐倉市総務課 市史編さん室	ふるさと歴史読本 原始・古代の佐倉	佐倉市	1999年	平成11年
72	佐倉市総務課 市史編さん室	ふるさと歴史読本 中世の佐倉	佐倉市	2000年	平成12年
73	佐倉市立美術館	体感する美術'00 佐倉観光案内	佐倉市立美術館	2000年	平成12年
74	佐倉市教育委員会文化課	佐倉細見 改訂3版	佐倉市教育委員会	2001年	平成13年
75	佐倉市総務課 市史編さん室	ふるさと歴史読本 近代の佐倉	佐倉市	2001年	平成13年
76	佐倉市立美術館	佐倉が生んだ関西洋画壇の巨匠 都鳥英喜展	佐倉市立美術館	2001年	平成13年
77	佐倉市立美術館	浅井忠の図案展	佐倉市立美術館	2001年	平成13年
78	佐倉市教育委員会	「佐倉市郷土の先覚者」シリーズ 小事典Ⅰ・Ⅱ	佐倉市教育委員会	2001年	平成13年
79	(勸)千葉県史料研究財団	千葉県の歴史 通史編 古代2	千葉県	2001年	平成13年

No.	編・著者	刊行物名	発行者	発行年	
80	高橋健一・江波戸寿人	白井・千代田百科事典	佐倉市立白井公民館	2002年	平成14年
81	佐倉市教育委員会	旧堀田邸保存整備工事報告書	佐倉市教育委員会	2002年	平成14年
82	佐倉市教育委員会	旧佐倉順天堂保存修理工事報告書	佐倉市教育委員会	2002年	平成14年
83	千葉県立総南博物館	絵図にみる城と城下町	千葉県教育委員会	2002年	平成14年
84	千葉県教育委員会	集落・町並 －千葉県集落・町並実態調査報告書－	千葉県教育委員会	2002年	平成14年
85	佐倉市総務課 市史編さん室	ふるさと歴史読本 佐倉の自然	佐倉市	2003年	平成15年
86	佐倉市立美術館	香取秀真展	佐倉市立美術館	2003年	平成15年
87	佐倉市史編さん委員会	佐倉市史料叢書 保受録 徒以下末々迄（文久～慶応）	佐倉市	2003年	平成15年
88	佐倉市史編さん委員会	佐倉市史料叢書 日記三番鎬木村・ 日記四番（弘化3年・天保13年）	佐倉市	2003年	平成15年
89	佐倉市立弥富公民館	弥富のむかし話 金の雉	佐倉市立弥富公民館	2003年	平成15年
90	佐倉市教育委員会文化課	武家屋敷（解説書）	佐倉市教育委員会	2003年	平成15年
91	佐倉市総務部行政管理課 市史編さん担当	佐倉連隊聞き書き集1～3	佐倉市	2003～ 05年	平成15～ 17年
92	佐倉市立美術館	市制50周年記念展 佐倉の美術	佐倉市立美術館	2004年	平成16年
93	佐倉市総務部行政管理課 市史編さん担当	写真に見る佐倉	佐倉市	2004年	平成16年
94	千葉県教育委員会	千葉県の近代和風建築	千葉県教育委員会	2004年	平成16年
95	（財）印旛郡市 文化財センター	印旛の原始・古代－旧石器時代編－	（財）印旛郡市 文化財センター	2004年	平成16年
96	（財）千葉県史料研究財団	千葉県の歴史 資料編 考古4（遺跡・遺構・遺物）	千葉県	2004年	平成16年
97	（財）千葉県教育振興財団	研究紀要25 房総における郡衙遺跡の諸 問題－下総国を中心として－	（財）千葉県教育振興財団	2004年	平成16年
98	国立歴史民俗博物館	佐倉連隊にみる戦争の時代	国立歴史民俗博物館	2006年	平成18年
99	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館研究報告第131集 佐 倉連隊と地域民衆	国立歴史民俗博物館	2006年	平成18年

No.	編・著者	刊行物名	発行者	発行年	
100	（勸）印旛郡市文化財センター	印旛の原始・古代—縄文時代編—	（勸）印旛郡市文化財センター	2007年	平成19年
101	佐倉市史編さん委員会	佐倉市史 巻4	佐倉市	2008年	平成20年
102	佐倉市教育委員会	旧堀田邸冠木門・笠木堀・門番所復元整備工事報告書	佐倉市教育委員会	2008年	平成20年
103	佐倉市教育委員会	佐倉学副読本 ふるさと佐倉の歴史	佐倉市教育委員会	2008～23年	平成20～令和5年
104	内郷史誌編纂委員会	内郷史誌 通史編・資料編	内郷史誌編纂委員会	2009年	平成21年
105	加藤高・加藤紘	立身流之形 第一巻 復刻版	立身流 加藤紘	2009年	平成21年
106	佐倉市立美術館	津田信夫展	佐倉市立美術館	2010年	平成24年
107	文化庁文化財部記念物課	近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書	文化庁	2012年	平成24年
108	浅倉直美	論集戦国大名と国衆9 玉縄北条氏	岩田書院	2012年	平成24年
109	日本医史学会	佐倉順天堂—近代医学の発祥地—	日本医史学会・佐倉市教育委員会	2012年	平成24年
110	佐倉市教育委員会・佐倉日蘭協会	佐倉とオランダ	佐倉市教育委員会文化課	2013年	平成25年
111	佐倉市史編さん委員会	佐倉市史 考古編（本文編・資料編）	佐倉市	2013年	平成25年
112	千葉市美術館	仏像半島—房総の美しき仏たち—	千葉市美術館・美術館連絡協議会	2013年	平成25年
113	佐倉市立美術館	佐倉学-浅井忠展	佐倉市立美術館	2014年	平成26年
114	佐倉山車人形保存会	佐倉の祭礼 平成25年 麻賀多神社編	佐倉山車人形保存会	2014年	平成26年
115	佐倉山車人形保存会	佐倉の山車調査報告書	佐倉山車人形保存会	2014年	平成26年
116	順天堂大学175年史編纂委員会	写真で見る順天堂史 175年の軌跡	学校法人順天堂	2014年	平成26年
117	高橋富人	佐倉市域の歴史と伝説 旧石器時代から戦国時代の終焉まで	樺通信舎	2014年	平成26年
118	ふるさと弥富を愛する会	彌富村誌	ふるさと弥富を愛する会	2015年	平成27年
119	宮間純一	国葬の成立 明治国家と「功臣」の死	勉誠出版	2015年	平成27年

No.	編・著者	刊行物名	発行者	発行年	
120	滝川恒昭	戦国前期の房総里見氏に関する考察—新出足利政氏書状の紹介と検討を通じて— (『鎌倉』第119号所収)	鎌倉文化研究会	2015年	平成27年
121	内田理彦	昔日佐倉拾遺録 上・下巻	内田理彦	2016年	平成28年
122	千葉氏サミット 実行委員会	日本史を駆け抜けた月星の武士たち 千葉一族入門辞典	啓文社書房	2016年	平成28年
123	佐倉市史編さん委員会	総州佐倉御城府内之図	佐倉市	2017年	平成29年
124	佐倉市史編さん委員会	佐倉市史料叢書 古今佐倉真佐子	佐倉市	2017年	平成29年
125	佐倉市教育委員会文化課	佐倉市文化財リフレット 初版	佐倉市教育委員会	2017年	平成29年
126	土屋雅人	佐倉藩の御用炭と佐倉城下町 —平井家文書の佐倉炭関係資料— (『佐倉市史研究』第30号所収)	佐倉市	2017年	平成29年
127	千葉市立郷土博物館	戦国時代の千葉氏—古文書が語る争乱—	千葉市立郷土博物館	2017年	平成29年
128	佐倉市教育委員会	佐倉・城下町400年記念事業総合展示 「城と町と人と」	佐倉市教育委員会	2018年	平成30年
129	佐倉市教育委員会文化課	さくら万華鏡 —古今佐倉真佐子に見る江戸時代の佐倉—	佐倉市教育委員会	2018年	平成30年
130	佐倉市史編さん委員会	佐倉市史料叢書 帝国在郷軍人会 佐倉町分会 歴史	佐倉市	2018年	平成30年
131	佐倉市立美術館	知られざるドイツ建築の継承者 —矢部又吉と佐倉の近代建築	佐倉市立美術館	2018年	平成30年
132	佐倉市立美術館	女子美術大学と佐藤志津展	佐倉市立美術館	2018年	平成30年
133	千葉県立中央博物館 大多喜城分館	平成30年度企画展図録 「房総ゆかりの甲冑」	千葉県立中央博物館 大多喜城分館	2018年	平成30年
134	白井八景・八ヶ寺めぐり 実行委員会	白井八景 -禪宗寺院の境致・白井城主物語- 初版	白井八景・八ヶ寺めぐり 実行委員会	2018年	平成30年
135	立身流 加藤紘	立身流之形 第二巻	立身流 加藤紘	2018年	平成30年
136	佐倉市史編さん委員会	佐倉市史料叢書 佐倉古名鑑	佐倉市	2019年	平成31年
137	佐倉市史編さん委員会	佐倉市史料叢書 村会雑組1	佐倉市	2020年	令和2年

No.	編・著者	刊行物名	発行者	発行年	
138	土屋雅人	近世後期における佐倉炭生産地帯の様相 —佐倉牧周辺を事例に— (『佐倉市史研究』第33号所収)	佐倉市	2020年	令和2年
139	佐倉市・酒々井町	本佐倉城跡指定20周年記念講演会記録集 敵を阻む城、にぎわう城下 ～戦国時代の本佐倉城と千葉氏の歴史～	佐倉市・酒々井町	2020年	令和2年
140	久保健一郎	列島の戦国史1 享徳の乱と戦国時代	吉川弘文館	2020年	令和2年
141	竹井英文	列島の戦国史7 東日本の統合と織豊政権	吉川弘文館	2020年	令和2年
142	宮間純一	歴史資源としての城・城下町	岩田書院	2021年	令和3年
143	佐倉市教育委員会文化課	佐倉市文化財リフレット 改訂版	佐倉市教育委員会	2021年	令和3年
144	佐倉市史編さん委員会	佐倉市史料叢書 村会雑俎2	佐倉市	2021年	令和3年
145	佐倉市教育委員会	旧川崎銀行佐倉支店耐震補強工事報告書	佐倉市教育委員会	2021年	令和3年
146	千葉県教育委員会	千葉県内縄文時代集落・ 貝塚詳細分布調査報告書	千葉県教育委員会	2021年	令和3年
147	宝金剛寺	七条袈裟・横被修復記念 文化財が紡ぐ 佐倉の歴史 —宝金剛寺と北条氏勝—	宝金剛寺	2022年	令和4年
148	高橋啓一	琵琶湖博物館研究紀要第35号 ナウマンゾウ研究百年	滋賀県立琵琶湖博物館	2022年	令和4年
149	酒々井町教育委員会	令和2年度国史跡本佐倉城跡講演会記録集 戦国の城のライフサイクル ～本佐倉城築城から廃城、そして現代へ～	酒々井町教育委員会	2022年	令和4年
150	加藤高・加藤紘	立身流之形 第一巻 改訂版	立身流 加藤紘	2022年	令和4年
151	白井八景・八ヶ寺めぐり 実行委員会	白井八景 -禅宗寺院の境致・白井城主物語- 改訂版	白井八景・八ヶ寺めぐり 実行委員会	2022年	令和4年
152	千葉市立郷土博物館	我、関東の将軍にならん —小弓公方足利義明と戦国期の千葉氏—	千葉市立郷土博物館	2022年	令和4年
153	酒々井町教育委員会	令和3年度国史跡本佐倉城跡講演会記録集 城と城下にみる戦国大名の権威 —本佐倉、小田原、甲府—	酒々井町教育委員会	2023年	令和5年
153	外山信司	上杉謙信の白井城攻めと原氏 (『歴史研究』第709号所収)	戎光祥出版	2023年	令和5年